

2021 年度第 2 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録

日 時：令和 3 年 9 月 13 日（金）16 時 15 分 から 16 時 55 分

場 所：Zoom による WEB 会議

出席者：1 号委員 大湊、卜部、澤田、奥村

2 号委員 松本、三浦（哲）、内村、野田、照本、朝位、Netra、塚原

3 号委員 飯高、松四、五十嵐、梶川、西野、角、塚原（2 号委員兼務）、安江

4 号委員 橋本

5 号委員 飯塚

6 号委員 柴山、畑山、横松

オブザーバ 中北、松島、福田、三浦（伸）

陪 席 河津、織田、幸、大西

（敬称略、委員名簿順）

配付資料：

資料 1 京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿・出席者名簿

資料 2 令和 2 年度第 3 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録（案）

資料 3 令和 2 年度自然災害研究協議会決算報告

資料 4 令和 3 年度自然災害研究協議会本部活動計画

及び各地区部会の活動計画と予算計画

4-1 本部、4-2 北海道地区、4-3 東北地区、4-4 関東地区、4-5 中部地区、

4-6 近畿地区、4-7 中国地区、4-8 四国地区、4-9 西部地区

資料 5 令和 3 年度自然災害研究協議会予算（案）

資料 6 第 58 回自然災害科学総合シンポジウム（案）

資料 7 自然災害研究協議会科研費（突発災害）申請ガイドライン

突発災害調査委員会名簿（令和 3 年度）（案）

資料 8 データベース SAIGAI 改革に向けた取り組みの進捗報告

協議会議事に先立ち、中北 京都大学防災研究所長から挨拶があり、本協議会直前まで開催

されていた「第 58 回自然災害科学総合シンポジウム」への協力への謝意が述べられた。続いて、福田 文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長から挨拶があり、今後の自然災害への対応への本協議会の引き続きの協力要請などが述べられた。

議 事：

1. 令和 3 年度 第 1 回協議会議事録（案）の確認（資料 2）

奥村議長より、資料に基づいて説明があり、原案とおりました承された。

2. 令和 2 年度 本部・各地区部会からの活動報告及び今後の活動計画（資料 3）

資料に基づいて、本部及び各地区部会より、令和年度の活動計画及び予算計画について説明がなされ、了承された。

全体的に、コロナ禍による事業の縮小、会議等のオンライン化への変更等の発言が目立った。オンライン化により他地域のイベントへの参加が容易になったという面もあるので、事業内容の詳細が固まったら相互に情報提供すれば、他地域の関心あるイベントに参加できるのではないかという提案があった。事務局からは、会議等のオンライン化等による旅費・謝金等の余剰金の他事業への流用等で対応していただきたいこと、そのうえで、なお余剰金が出る場合は、早期の事務局への相談などが求められた。

（説明要旨は以下のとおり、9 月 14 日以降の日付は予定）

○本 部：第 58 回自然災害科学総合シンポジウムの開催（2021 年 9 月 13 日 オンライン開催、河川災害シンポジウムの開催（2021 年 12 月 8 日 富山県民会館）、科研費（特別研究促進費）・突発災害調査の実施（協議会開催時点では予定はないが、今後自然災害が発生したら対応を検討する）、突発災害（初動調査、継続的調査等）調査研究サポート（東ティモール災害の調査支援、熱海市土石流災害の災害調査）、データベース SAIGAI 改革への進捗状況、国際展開調査（世界防災研究所連合（Global Alliance of Disaster Research Institute（GADRI））との連携（5th Global Summit of GADRI 世界防災研究所サミット（8/31～9/1）のパネルディスカッションにて、自然災害研究協議会の活動に関する講演を実施）、人材データベース（継続して提供するが、今後は主に地区部会の ML の連携活用を中心とする）。

○北海道地区：第 1 回幹事会を開催（オンライン）。今後第 2 回幹事会及び総会（1 回）の開催

予定、地区フォーラム（北海道大学の主催で地区フォーラムを検討中）開催予定、北海道地区自然災害科学資料センター報告 Vol. 34 の配布、Vol. 35 配布予定、北海道地区自然災害関係研究者センターHPの管理運営。なお、第1回幹事会オンライン化による旅費の余剰金（第2回も状況は読めない）はフォーラム、印刷費等に使用。

○東北地区：東北地域災害科学研究集会及び東北地区部会総会開催（2021年12月17日～18日 岩手大学農学部（オンライン）、東北地区自然災害資料センターの管理運営（寄贈図書の整理と登録作業等）、研究論文集「東北地域災害科学研究」第58巻発行予定、ウェブページの管理運営（一部システム導入を検討中、研究集会への参加申込や、梗概・論文の投稿などをユーザー自らがweb上で行えるようにして事務局負担の軽減を図る）

○関東地区：市民オープンフォーラムの開催（令和3年12月11日 「埼玉大学連続市民講座 危機の時代ー持続可能な社会を目指して」の第6回分として実施）（対面（埼玉大学 全学講義棟）150名+オンライン500名のハイブリッド）、余剰金は若手研究者の支援（助教、准教授の研究者を対象）使用予定

○中部地区：げんさい楽座のスピナウト企画の開催（岐阜大学地域減災研究センター）、第31回減災館特別企画展「災と Seeing」（令和3年秋以降、名大減災館とハイブリッド開催）、「三重大学・北勢防災アカデミー」（三重大学 地域圏防災・減災研究センター）（令和3年秋以降、川越町）開催、東海圏減災研究コンソーシアム事業（仮開催予定（名古屋工業大学 高度防災工学研究センター）（令和3年度、名古屋市内（幹事会））、シンポジウム「インフラの耐震性強化・災害復旧とメンテナンス」の開催（2021年11月頃、名古屋工業大学）、防災シンポジウムの開催（豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター）（2021年12月 豊橋市内）、自然災害科学中部地区研究集会の開催（2022年3月5日）、中部地区自然災害史料センターの活動（HPの運営管理、水防災セミナーの開催、SAIGAI データベースの更新）、自然災害調査・報告活動

○近畿地区：近畿地区部会幹事会の開催、研究者データベース・HPの更新、地域防災実践型共同研究の実施、近畿地区部会メンバー名簿更新、近防災関連研究集会の開催（募集中）、各防災研究グループへの活動補助（調査旅費、調査用消耗品等）（山口大学農学部山本晴彦教授に佐賀県六角川流域調査に支援）、旅費等の余剰金については

研究集会の拡充など使用することを検討中

- 中国地区：部会HPの管理・充実、研究グループの金銭補助、研究発表会の実施（2022年3月）（オンライン）、自然災害研究協議会中国地区部会 研究論文集（第8号）の発行
- 四国地区：突発災害調査（台風による豪雨災害等が発生すれば可能な限り調査予定、静岡県熱海土砂災害被災地調査を予定したが、大学に他県訪問規制があって断念）、「令和3年自然災害フォーラム&第16回南海地震四国地域学術シンポジウム」開催（令和4年1月21日（金） 10:00～15:00、サンポートホール高松（対面）、地区部会の開催予定（2022年1月21日（金）、高松市（香川大学））
- 西部地区：研究発表会の開催（2022年2月4日）、西部地区部会部会報第46号の発行、西部地区部会名簿の更新・見直し

3. 今後の予定（第3回自然災害研究協議会開催について）

五十嵐委員より、令和3年3月中旬を予定していること、日程については後日正式に紹介することが述べられた。